

## II 調査結果の概要

### 1 総括

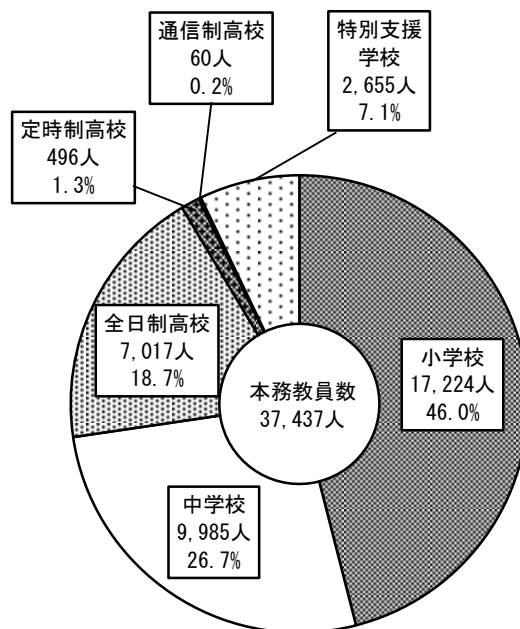
平成25年10月1日現在の県内公立学校の本務教員数は、37,437人でした。

学校種別教員数をみると、小学校の教員数が最も多く、46.0%を占めています。以下、中学校が26.7%、全日制高等学校が18.7%、特別支援学校が7.1%、定時制高等学校が1.3%、通信制高等学校が0.2%でした。

男女別構成比をみると、男性教員の割合が最も高いのは定時制高等学校で80.6%、女性教員の割合が最も高いのは小学校で62.1%でした。

年齢構成をみると、20歳代の割合が最も高いのは小学校で20.0%でした。以下、30歳代も小学校で24.4%、40歳代は定時制高等学校で26.8%、50歳代は通信制高等学校で71.7%、60歳以上も通信制高等学校で11.7%でした。

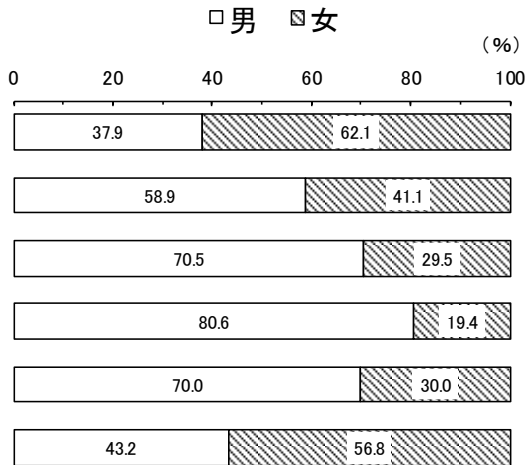
第1図 学校種別教員数



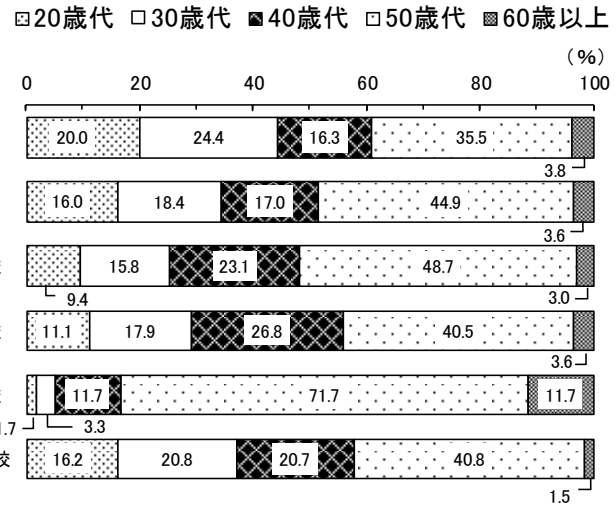
第1表 本務教員数、平均年齢及び男女比

区分	本務教員数 (人)			平均年齢 (歳)			男女比 (%)			
	平成25年度	平成22年度	増減	平成25年度	平成22年度	増減	平成25年度	平成22年度	増減	
合計	計	37,437	37,599	△162	44.6	46.0	△1.4	100.0	100.0	-
	男	18,939	19,171	△232	46.1	47.4	△1.3	50.6	51.0	△0.4
	女	18,498	18,428	70	43.2	44.7	△1.5	49.4	49.0	0.4
小学校	計	17,224	17,568	△344	43.2	45.0	△1.8	100.0	100.0	-
	男	6,523	6,514	9	43.9	45.4	△1.5	37.9	37.1	0.8
	女	10,701	11,054	△353	42.8	44.7	△1.9	62.1	62.9	△0.8
中学校	計	9,985	9,902	83	45.2	46.4	△1.2	100.0	100.0	-
	男	5,877	5,993	△116	46.5	47.9	△1.4	58.9	60.5	△1.6
	女	4,108	3,909	199	43.5	44.3	△0.8	41.1	39.5	1.6
高等学校計	計	7,573	7,683	△110	47.2	47.9	△0.7	100.0	100.0	-
	男	5,391	5,575	△184	48.2	49.0	△0.8	71.2	72.6	△1.4
	女	2,182	2,108	74	44.9	45.0	△0.1	28.8	27.4	1.4
全日制	計	7,017	7,138	△121	47.3	47.8	△0.5	100.0	100.0	-
	男	4,949	5,139	△190	48.3	48.9	△0.6	70.5	72.0	△1.5
	女	2,068	1,999	69	44.9	45.0	△0.1	29.5	28.0	1.5
定時制	計	496	487	9	45.9	48.7	△2.8	100.0	100.0	-
	男	400	395	5	46.2	49.6	△3.4	80.6	81.1	△0.5
	女	96	92	4	45.0	45.0	0.0	19.4	18.9	0.5
通信制	計	60	58	2	53.8	52.8	1.0	100.0	100.0	-
	男	42	41	1	55.3	53.6	1.7	70.0	70.7	△0.7
	女	18	17	1	50.4	51.0	△0.6	30.0	29.3	0.7
特別支援学校	計	2,655	2,446	209	44.3	46.2	△1.9	100.0	100.0	-
	男	1,148	1,089	59	46.2	47.8	△1.6	43.2	44.5	△1.3
	女	1,507	1,357	150	42.9	44.9	△2.0	56.8	55.5	1.3

第2図 学校種別教員の男女比



第3図 学校種別教員の年齢構成

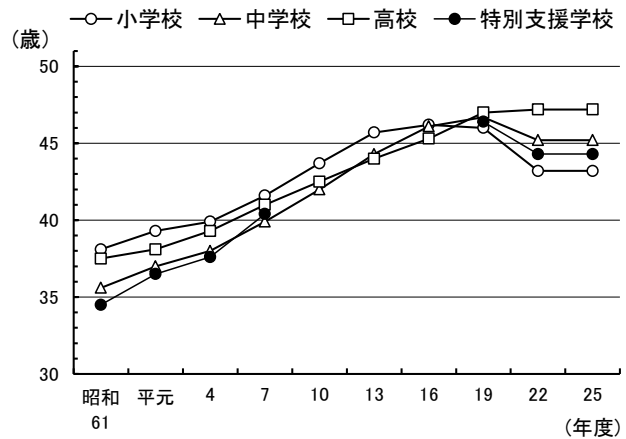


2 平均年齢の推移

学校種別に教員の平均年齢をみると、小学校の43.2歳が最も低く、次いで、特別支援学校の44.3歳、中学校で45.2歳、高等学校（全日制、定時制及び通信制の合計）で47.2歳でした。

平成25年度と平成22年度の教員の平均年齢を比較すると、前回調査では、上昇していた高等学校も下降に転じ、全ての学校種で平均年齢が低下しました。

第4図 学校種別教員の平均年齢の推移



第2表 学校種別教員の平均年齢の推移

(単位:歳)

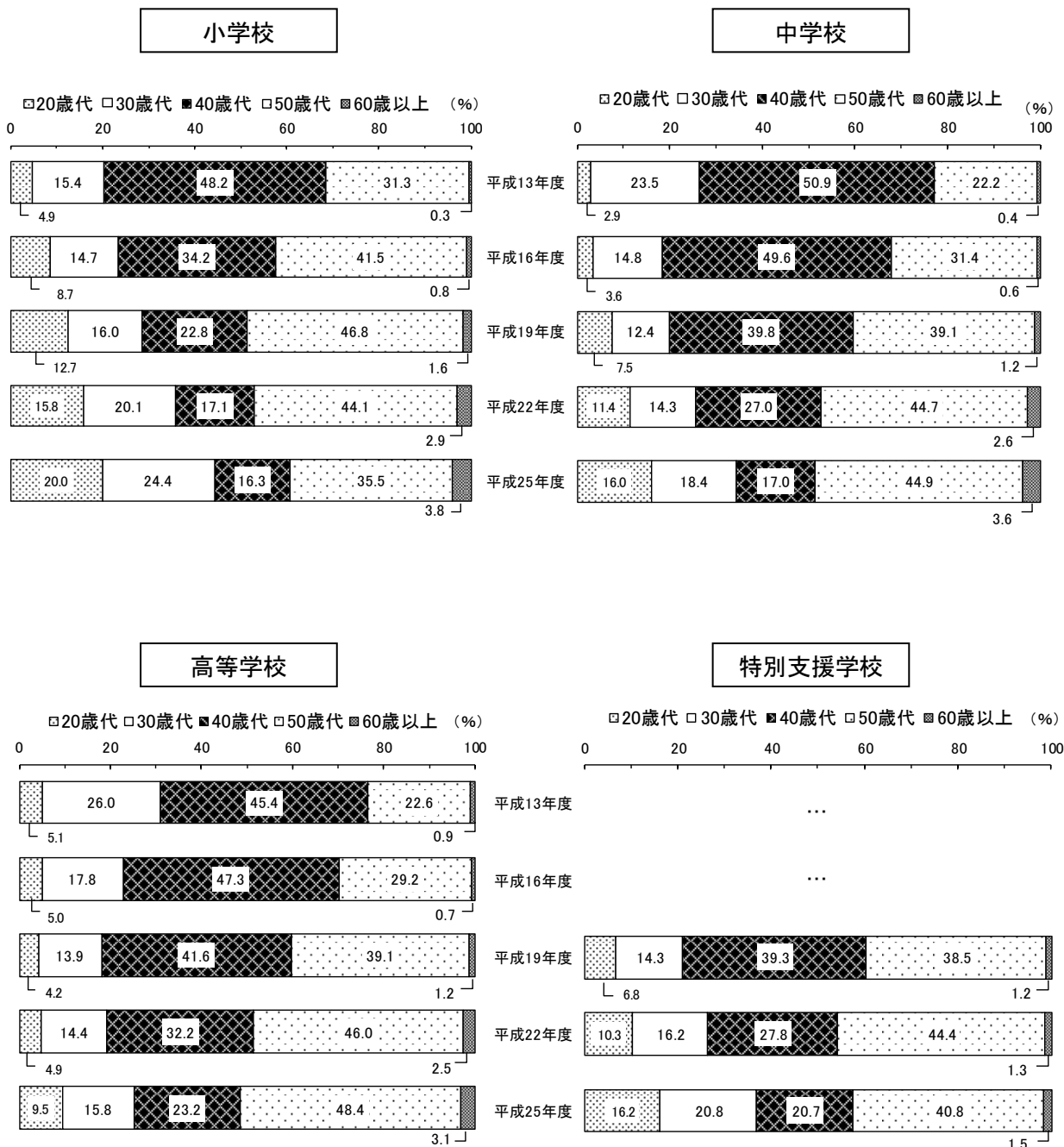
年度	区分	小学校			中学校			高校(全・定・通)			特別支援学校		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和	61	40.9	36.4	38.1	36.9	33.4	35.6	38.0	35.3	37.5	35.6	33.4	34.5
平成	元	41.6	37.9	39.3	38.0	35.2	37.0	38.6	36.2	38.1	37.9	35.3	36.5
	4	41.5	39.0	39.9	38.9	36.6	38.0	39.8	37.6	39.3	38.8	36.7	37.6
	7	42.6	41.0	41.6	40.7	38.5	39.9	41.6	39.0	41.0	41.5	39.4	40.4
	10	44.3	43.4	43.7	42.7	40.8	42.0	43.1	40.4	42.5	...	...	...
	13	46.1	45.5	45.7	45.1	43.0	44.3	44.7	41.9	44.0	...	...	...
	16	46.5	46.1	46.2	47.0	44.5	46.1	46.2	42.7	45.3	...	...	...
平成	19	46.7	45.6	46.0	47.9	44.7	46.7	48.0	44.2	47.0	47.7	45.2	46.4
	22	45.4	44.7	45.0	47.9	44.3	46.4	49.0	45.0	47.9	47.8	44.9	46.2
	25	43.9	42.8	43.2	46.5	43.5	45.2	48.2	44.9	47.2	46.2	42.9	44.3
対平成22年度		△1.5	△1.9	△1.8	△1.4	△0.8	△1.2	△0.8	△0.1	△0.7	△1.6	△2.0	△1.9

※ 平成10、13及び16年度の特別支援学校については公表されていない。

### 3 年齢構成の推移

平成13年度からの年齢構成の推移をみると、全学校種で40歳代の割合が大幅に減少しています。中学校及び高等学校では、50歳代の割合が増加していますが、小学校及び特別支援学校では、50歳代の割合も減少に転じています。20及び30歳代の割合は、全学校種で増加しています。

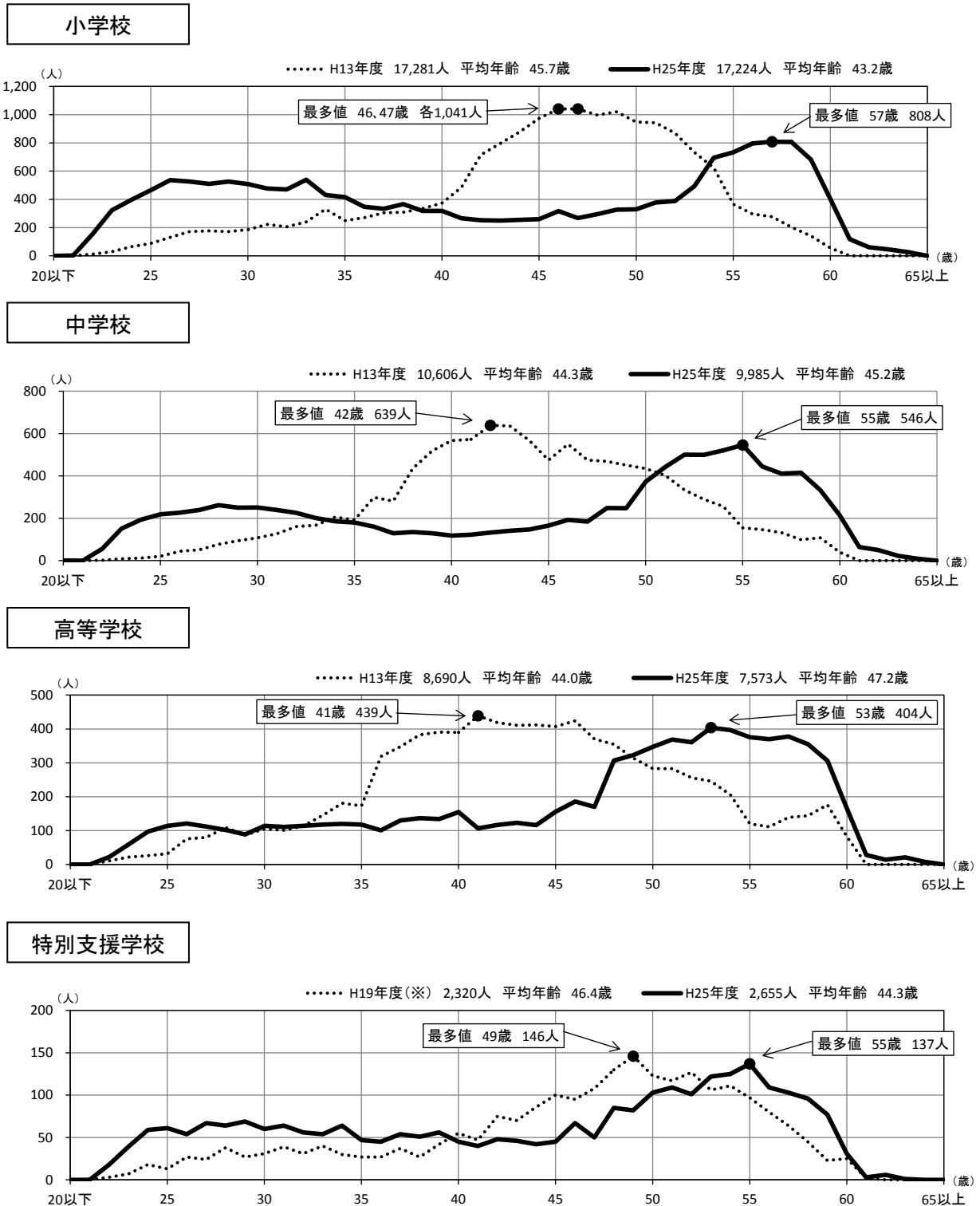
第5図 年齢構成の推移



※ 特別支援学校の平成13及び16年度の年齢別本務教員数は公表されていない。

平成13年度（特別支援学校は平成19年度、以下、同様）と今回の調査結果を年齢別に比較しました。平成13年度は、どの学校種も40歳代に人数のピークがありますが、今回の調査結果では、50歳代に移っています。また、小学校及び中学校では、20歳代から30歳代半ばの人数が増加しており、高等学校及び特別支援学校では、20歳代半ばから40歳代半ばまでの人数がほぼ均衡しています。

第6図 年齢別教員数の推移（平成13年度との比較）



※ 特別支援学校の都道府県別年齢別本務教員数は、平成19年度から公表開始

#### 4 地域別市町村立小・中学校の状況

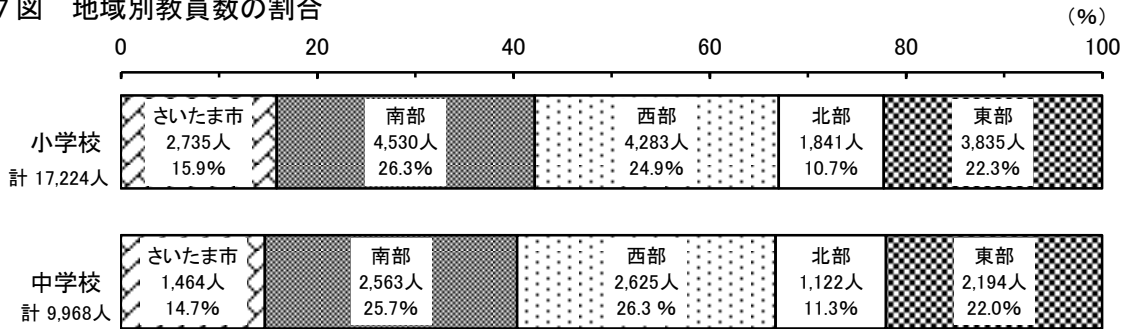
地域別に教員数をみると、最も人数が多いのは、小学校では南部教育事務所管内で全体の26.3%、中学校では西部教育事務所管内で、26.3%でした。

20歳代の割合が最も高いのは、小学校ではさいたま市で23.1%、中学校では南部教育事務所管内で19.0%でした。

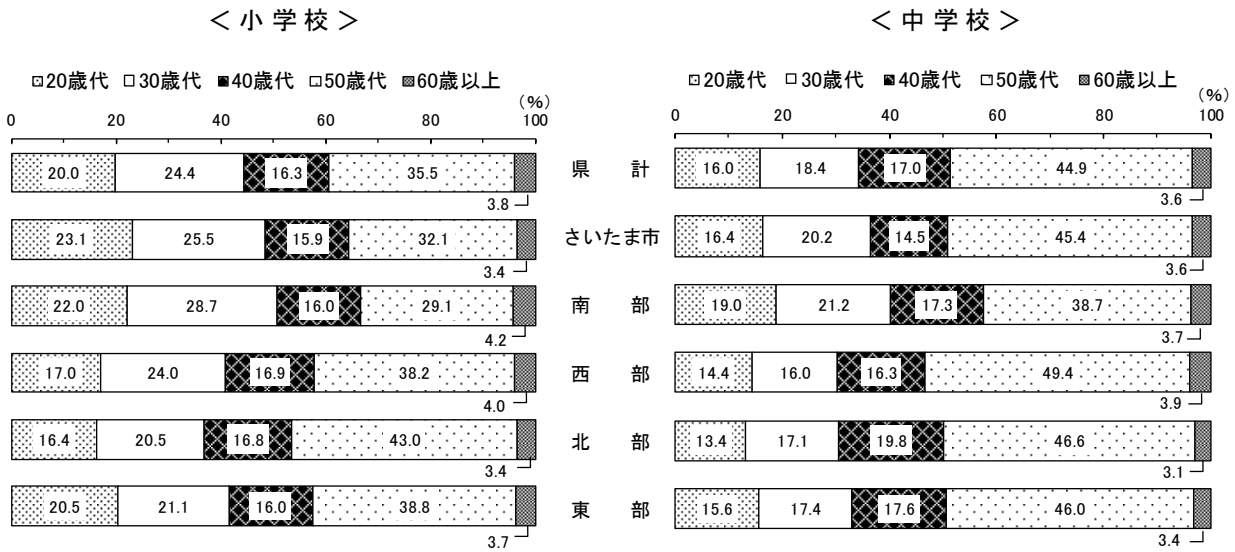
教員の平均年齢が最も低いのは、小学校が南部教育事務所管内で41.9歳、中学校でも南部教育事務所管内で43.8歳でした。最も高いのは、小学校が北部教育事務所管内で45.1歳、中学校が西部教育事務所管内で46.3歳でした。平均年齢の最高と最低の差は、小学校が3.2歳、中学校が2.5歳でした。

※ 市町村の地域については、8ページを参照してください。

第7図 地域別教員数の割合



第8図 地域別教員の年齢構成



第9図 地域別教員の平均年齢

